

専攻医  
の主張

## 未来の選択肢

独立行政法人国立病院機構 東広島医療センター 小児科 西田 優衣

2年間の初期研修を終え、小児科の専攻医になってちょうど半年がたちました。

現在勤務している東広島医療センターは、東広島市とその周辺地域の急性期医療を担う広島中央医療圏の中核病院です。また地域周産期母子医療センターとしての役割もあり、小児科の専攻医として日々多くの経験をさせていただいています。まだまだ頼りない雰囲気が出てしまっているのか、スタッフに初期研修医と勘違いされたり、患者さんに「その看護師さん」と呼び止められることもあります。「医師になったら小児科医になりたい」と思ってきた私は、夢を叶えることができた喜びを日々感じています。

小児科医になって感じる小児科の1番の特徴は、疾患や臓器によらず患者さんが子どもであればその全てを対象としているということです。そのため、普段の診療は、感冒の診察から喘息の治療、脳波の読影、NICU管理、ときに虐待の対応など非常に多岐にわたります。その分、学ばなければいけないことが多く自分の未熟さを痛感してばかりですが、患者さんの「ありがとう」という言葉にいつも励ましてもらっています。

小児科の患者さんは多くが元気になって普段の生活に戻っていきます。小さな病気であれば、本人はもちろん、ご家族も時間とともに病気になったことなど忘れていくかもしれません。一

方で先天性の疾患や病気の後遺症で生活にサポートが必要な患者さんもいます。さまざまな背景を持つ患者さんがおられますが、その全員に共通していることは、その後患者さんが歩んでいく「未来」があるという点です。もちろん全員に同じ未来があるわけではありませんが、その中で小児科医ができることは、将来患者さんが一つでも多くの選択肢から自分で未来を選べるようにすることだと考えています。病気を治すことはもちろん、たとえ完治が難しい病気だとしても、その病気に共に向き合うことで、それぞれの患者さんの未来は広がっていくのではないのでしょうか。小児科医としてはまだまだ半人前にも届きませんが、いつか、たとえ患者さんが覚えていなくても、誰かの未来の選択肢を増やすお手伝いができたと自信をもって言えるように、日々患者さんとそのご家族に真摯に向き合っていきたいです。

最後にこちらの紙面をお借りして。東広島医療センター小児科の先生方、日々ご指導いただきありがとうございます。先生方の温かさと優しさにいつも甘えてばかりですが、先生方の下で小児科医として歩み始めることができている今の毎日はとても恵まれていると感じています。至らないことばかりで手のかかる専攻医だとは思いますが、今後ともよろしく願いいたします。

## 「重篤副作用疾患別対応マニュアル」の紹介動画

下記ホームページに掲載しています。

## 【厚生労働省ホームページ】

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/iyakuhin/topics/tp061122-1.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iyakuhin/topics/tp061122-1.html)

## 【独立行政法人医薬品医療機器総合機構ホームページ】

<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/adr-info/manuals-for-public/0003.html>